

〔藻鹽草<sup>三</sup>地儀〕原

松原 柳原 檜原 すぎ原 木原 竹原 桑原 野原 玄の原 さ、原 柞原 あさぢ原

いし原 河原 國原 うな原 萩原 おぎ原 おぎのやけ原 くす原 まくす原 まく

すが原 あし原 玄ば原 かや原 をかや原 ち原 ふし原 のし原 道のべのいつしは

原<sup>略</sup>註 こしのすが原 をの、すが原 うつき原 あさぢが原

植樹木

〔桃源遺事<sup>四</sup>〕一下總國葛飾郡小金の原<sup>常陸</sup>なり 渺々として旅人道に迷ふ事あり、況や雪のあし

た雨の夕はさら也西山公此事を不便におぼしめし、道の並に松を數千本御植ゑさせ候、又同國

法華宗の談林香取郡飯高井中村への道に、印旛郡酒井原及び根木名原とて、香取郡東佐野村ま

でつゞき行程四五里ほどの廣野あり、一とせ西山公此所を御通り御覽被成、是又旅人の道にま

どはんことを思しめし、道の並松多御植させなされ候、又香取郡高萩の原<sup>三</sup>里へも右の覺しめ

名原

しにて、松おほく御うゑさせなされ候、

〔枕草子<sup>一</sup>〕原は たかはら みかの原 あしたのはら うのはら はぎはら あはづのはら なしはら

うなひこがはら あべのはら 玄のはら

〔奥義抄<sup>上ノ下</sup>〕出萬葉集所名 普通名所不注

原 まきもくのひはら みわのひはら たけたのはら たかのはら はつせのひはら よさみ

のはら ゆはら

〔八雲御抄<sup>五</sup>名所〕原

たけたのはら<sup>山城</sup>わたす<sup>万</sup>たけたのはら<sup>鶴</sup>詠うちおほはらの<sup>同</sup>い<sup>万</sup>し<sup>ば</sup>みかの<sup>原</sup>同<sup>大</sup>宮<sup>所</sup>あれたりの、は、そ